

**【参考資料】**  
**流域治水プロジェクトについて**

令和2年7月6日  
国土交通省 中国地方整備局

**課題** 気候変動による水災害リスクの増大に備えるためには、これまでの河川管理者等の取組だけでなく、集水域から氾濫域にわたる流域に関わる関係者が、主体的に取り組む社会を構築する必要がある。

**対応** ◆河川・下水道管理者等による治水に加え、あらゆる関係者（国・都道府県・市町村・企業・住民等）により流域全体で行う治水「流域治水」へ転換することによって、施策や手段を充実し、それらを適切に組合せ、加速化させることによって効率的・効果的な安全度向上を実現する。  
 ◆併せて、自然環境が有する多様な機能を活用したグリーンインフラを、官民連携・分野横断により推進し、雨水の貯留・浸透を図る。

氾濫を防ぐための対策  
～ハザードへの対応～

(しみこませる)※  
 雨水浸透施設（浸透ます等）の整備  
 ⇒ 都道府県・市町村、企業、住民

(ためる)※  
 雨水貯留施設の整備、  
 田んぼやため池等の高度利用  
 ⇒ 都道府県・市町村、企業、住民

ダム、遊水地等の整備・活用  
 ⇒ 国・都道府県・市町村、利水者

(安全に流す)  
 河床掘削、引堤、放水路、砂防堰堤、遊砂地、  
 雨水排水施設等の整備  
 ⇒ 国・都道府県・市町村

(氾濫水を減らす)  
 堤防強化等  
 ⇒ 国・都道府県

被害対象を減少させるための対策  
～暴露への対応～

(被害範囲を減らす)  
 土地利用規制、高台まちづくり  
 ⇒ 国・都道府県・市町村、企業、住民

二線堤等の整備  
 ⇒ 市町村

(移転する)  
 リスクが高いエリアからの移転促進  
 ⇒ 市町村、企業、住民

被害の軽減・早期復旧・復興のための対策  
～脆弱性への対応～

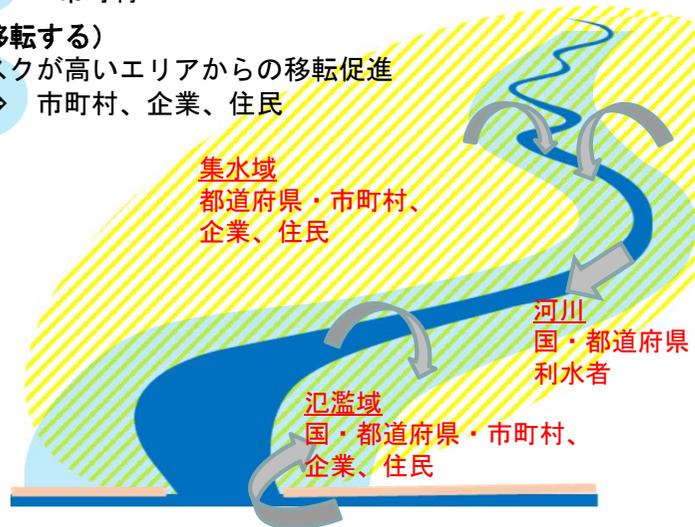
(避難態勢を強化する)  
 ICTを活用した河川情報の充実  
 浸水想定等の空白地帯の解消  
 ⇒ 国・都道府県・市町村・企業

(被害を軽減する)  
 建築規制・建築構造の工夫  
 ⇒ 市町村、企業、住民

(氾濫水を早く排除する)  
 排水門の整備、排水ポンプの設置  
 ⇒ 市町村等

(早期復旧・復興に備える)  
 BCPの策定、水災害保険の活用  
 ⇒ 市町村、企業、住民

(支援体制を充実する)  
 TEC-FORCEの体制強化  
 ⇒ 国・企業



※グリーンインフラ関係施策と併せて推進



河川管理者のこれまでの取組み（河川整備、大規模氾濫減災協議会）

**対応** ◆河川・下水道管理者等による治水に加え、あらゆる関係者（国・都道府県・市町村・企業・住民等）により流域全体で行う治水「流域治水」へ転換することによって、施策や手段を充実し、それらを適切に組合せ、加速化させることによって効率的・効果的な安全度向上を実現する。

「流域治水」の具体例

河川・下水道管理者による対策

堤防整備



ダム建設・ダム再生

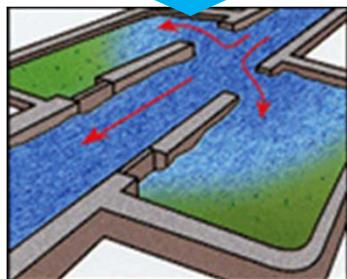


かさ上げイメージ

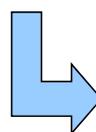
遊水地



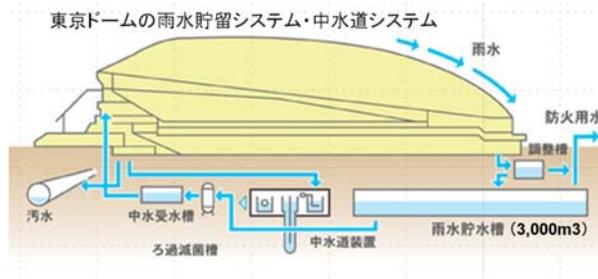
大規模地下貯留施設(下水道)



防災調整池

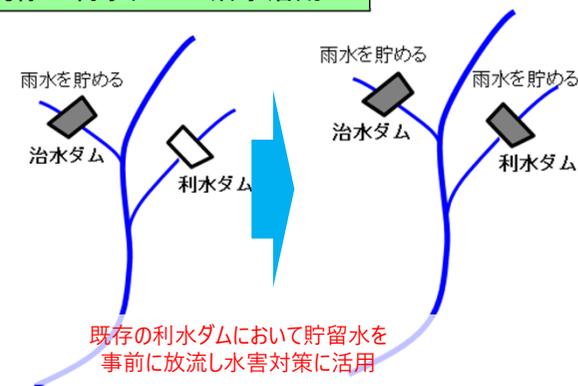


公共施設地下貯留(東京ドーム)

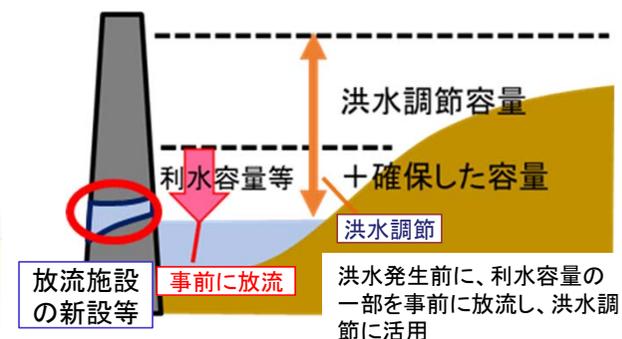


市町村や民間等による対策

既存の利水ダムの治水活用



(既存ダムの活用例)



# 「流域治水プロジェクト」に基づく事前防災の加速

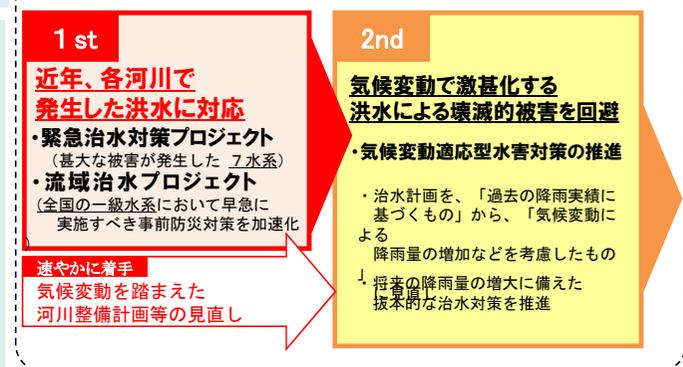
**課題** ◆ 気候変動による水災害リスクの増大に備えるためには、これまでの河川管理者等の取組だけでなく、流域に関わる関係者が、主体的に取組む社会を構築することが必要

**対応** ◆ 河川・下水道管理者等による治水に加え、あらゆる関係者（国・都道府県・市町村・企業・住民等）により流域全体で行う治水「**流域治水**」へ転換

◆ 令和元年東日本台風で甚大な被害を受けた7水系の「緊急治水対策プロジェクト」と同様に、全国の一級水系でも、流域全体で早急に実施すべき対策の全体像「**流域治水プロジェクト**」を示し、ハード・ソフト一体の事前防災対策を加速

◆ **戦後最大洪水に対応する国管理河川の対策の必要性・効果・実施内容等をベースに、夏頃までに関係者が実施する取組を地域で中間的にとりまとめ、「流域治水プロジェクト」を令和2年度中に策定**

今後の水害対策の進め方（イメージ）



## 全国7水系における「緊急治水対策プロジェクト」

◆ 令和元年東日本台風（台風第19号）により、甚大な被害が発生した7水系において、国・都県・市区町村が連携し、今後概ね5～10年で実施するハード・ソフト一体となった「緊急治水対策プロジェクト」に着手。

水系名	河川名	緊急治水対策プロジェクト (概ね5～10年で行う緊急対策)		
		事業費	期間	主な対策メニュー
阿武隈川	阿武隈川上流	約1,840億円	令和10年度まで	【ハード対策】 河道掘削、遊水地整備、堤防整備
	阿武隈川下流			【ソフト対策】 支川に危機管理型水位計及びカメラの設置 浸水リスクを考慮した立地適正化計画展開 等
鳴瀬川	吉田川	約271億円	令和6年度まで	【ハード対策】 河道掘削、堤防整備 【ソフト対策】 浸水想定地域からの移転・建替え等に対する支援 等
荒川	入間川	約338億円	令和6年度まで	【ハード対策】 河道掘削、遊水地整備、堤防整備 【ソフト対策】 高台整備、広域避難計画の策定 等
那珂川	那珂川	約665億円	令和6年度まで	【ハード対策】 河道掘削、遊水地整備、堤防整備 【ソフト対策】 霞堤等の保全・有効活用 等
久慈川	久慈川	約350億円	令和6年度まで	【ハード対策】 河道掘削、堤防整備 【ソフト対策】 霞堤等の保全・有効活用 等
多摩川	多摩川	約191億円	令和6年度まで	【ハード対策】 河道掘削、堰改築、堤防整備 【ソフト対策】 下水道樋管等のゲート自動化・遠隔操作化 等
信濃川	信濃川	約1,768億円	令和9年度まで	【ハード対策】 河道掘削、遊水地整備、堤防整備
	千曲川			【ソフト対策】 田んぼダムなどの雨水貯留機能確保 マイ・タイムライン策定推進 等
合計		約5,424億円		

※令和2年3月31日 HP公表時点

## 全国の各河川で「流域治水プロジェクト」を公表

◆ 全国の一級水系において、河川対策、流域対策、ソフト対策からなる流域治水の全体像をとりまとめ、国民にわかりやすく提示

◆ 戦後最大洪水に対応する国管理河川の対策の必要性・効果・実施内容等をベースに、プロジェクトを策定し、ハード・ソフト一体の事前防災を加速

【イメージ】 ○○川流域治水プロジェクト

★ 戦後最大(昭和XX年)と同規模の洪水を安全に流す  
★ 浸水範囲(昭和XX年洪水)  
(対策メニューのイメージ)

■ **河川対策**  
・堤防整備、河道掘削  
・ダム再生、遊水地整備 等

■ **流域対策(集水域と氾濫域)**  
・下水道等の排水施設、雨水貯留施設の整備  
・土地利用規制・誘導 等

■ **ソフト対策**  
・水位計・監視カメラの設置  
・マイ・タイムラインの作成 等

